

Vivoレーシングカート

Amigo

The first friend of a champion

オーナーズマニュアル

はじめに

Vivoレーシングカートをご購入いただきありがとうございます。

「Amigao あみごん アミゴン」ぼるとがるごとはポルトガル語で

「たいせつ大切なともだち友達、しんゆう親友」という意味です。

きみキミとこのかーとカートが、なかのいいなかのいいたいせつ大切なともだち友達になれますように。

そうごうそしてれーす走行やれーすレースを、いっしょ一緒におも思いたのっきりたの楽しめますように。

ういーうあ by Vivo Kart Factory かーと ふぁくとりー

このマニュアルは、Vivoレーシングカートが十分にその性能を発揮できるように、また安全にご使用いただけるように、取り扱い全般について、必要な事柄を記載したものです。

お子様がご使用になりますので、保護者の方にも一緒に本書をお読みいただき、万全のご指導をお願いします。

なお、仕様変更などにより、図や内容がお求めいただいた製品と一致しない場合がありますのでご了承ください。

ご使用について

このレーシングカートは、安全運転講習終了者を対象にして作られたレクリエーション専用の車両です。

運輸省の認定は受けておりませんので、一般公道では走行できません。必ずカートコース等の専用コースでご使用ください。

保証について

このレーシングカートは、レクリエーション専用車両として作成されたスペシャルマシンです。お買い上げ後の保証については、対象となりませんのでご了承ください。

また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って、常に最良の調子を保つように心掛けてください。

整備上の一般知識及び技能の無い人は、このマニュアルだけで点検、調整、組立て等を行わないでください。知識不足、技能不足のため、整備上のトラブル及び機械破損等の原因となる場合があります。特にエンジン、車体の分解、調整、組立てにおいては、お買い上げのカートショップで行うようにしてください。

本書の使い方

記載項目の探し方

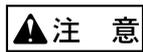
1. 本書の構成は、総説、新車の組立点検説明、点検・調整の3章に分類して編集しています。
2. 目次を前頁にまとめました。全体の構成がどのようになっているかを確認して、必要とする章、項目を探します。

記載内容の見方

1. 読む事項を少なくし、見て理解できるように写真、イラストを主体とした構成にしています。
2. 本書では正しい取り扱いおよび点検整備に関する必要な事項を下記シンボルマークで表示しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

その他のシンボルマークについては、次に意味、事項を示しています。

シンボルマーク

① 総説 	② 組立点検 
③ 点検調整 	
④ 	⑤ 
⑥ 	⑦ 
⑧ 	

① 総説編

② 新車の組立点検

③ 点検・調整編

④ 特殊工具

⑤ 締付トルク

⑥ 標準値及び使用限度

⑦ エンジン回転数

⑧ グリース

も く じ

第1章 総説編

安全運転のために	1-1
重要ラベル貼付箇所	1-4
各部の名称	1-5
車体各部の名称	1-5
エンジン各部の名称	1-6
燃料の取り扱い	1-7
燃料の給油	1-7
オイルと混合ガソリンの取扱い	1-7
エンジンの始動方法	1-8
エンジンの停止	1-9
ならし走行	1-9
仕様諸元	1-10

第2章 新車の組立

新車の組立	2-1
1. エンジンの組付け	2-2
2. リヤバンパの組付け	2-3
3. チェンガードの組付け	2-4
4. ゼッケンプレートの組付け	2-4
5. ホイールの組付け	2-5
6. スロットル、ブレーキケーブルの組付け	2-5
7. ステアリングシャフト、タイロッドの組付け	2-6
8. ステアリングホイール(ハンドル)の組付け	2-7
9. フロントパネルの組付け	2-7
10. シートの組付け	2-8
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図	2-9

第3章 点検・調整編

点検・交換一覧表	3-1
レース参加時の重点点検箇所	3-3
オイル、グリス塗布箇所	3-3
ならし走行後の点検	3-4
主な点検の内容	3-4
走行前の点検	3-5
一般点検整備	3-5
長期保管する場合	3-6
気化器内の燃料を使い切る	3-6
燃料を抜く	3-6
注油する	3-6
清掃して格納する	3-6
エンジン	3-7
アイドル調整	3-7
エアクリーナの清掃	3-7
スロットルペダル取付位置の調整	3-8
スロットルペダル開度の調整	3-8
スロットルペダル遊びの点検、調整	3-8
電装	3-9
スパークプラグ点検	3-9
車体	3-10
ブレーキペダル取付位置の調整	3-10
ブレーキペダル遊びの点検、調整	3-10
ブレーキディスクの点検	3-10
ハンドル上下調整	3-10
チェンライン点検、調整	3-11
チェン遊び点検、調整	3-11
タイヤ空気圧点検	3-11
タイヤ摩耗点検	3-11
フロントトレッド調整	3-12
リヤトレッド調整	3-12
トーイン点検、調整	3-13
スプロケット点検	3-13
エンジンがかからないとき	3-14
点火は正常ですか?	3-14
圧縮は十分ですか?	3-14
燃料が燃焼室に吸込まれていますか?	3-14



安全運転のために

YECレーシングカートを操作するにあたって、安全で正しい使用ができるように、この取扱説明書の記載事項をよくお読みいただき、適切に整備され、安全に使用されるよう努めてください。お子様が使用しますので、保護者の方の適切な指導が非常に大切です。

安全のために必ず次の事項を守ってください。

▲ 警告

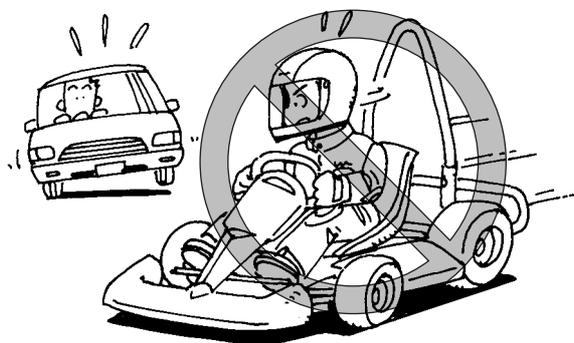
- このカートを操作する前に、必ず本書と車体に貼ってあるラベルをよく読んでお子様に十分で説明ください。
- このカートには、スロットルペダル開度調整を備え付けてあります。スロットル開度を技量に合った位置に調整してください。
- お子様（安全運転講習終了者）がカートを操作しますので、乗車前にカートの操作方法などをよく理解しているか確認してください。また、慣れるまで混んでいないコースで練習してください。
- このカートは一人乗り用です。他の人を乗せて走行するとトラブルを生じる恐れがあります。
- このカートは安全運転講習終了者が操作してください。
- お子様（安全運転講習終了者）がカートを操作しますので、必ずライセンスを持ち、カートの知識のある大人の監督者が付き添ってください。
- このカートは、国土交通省の認定を受けておりませんので、一般の道路では絶対に走行しないでください。必ずカート専用コースでご使用ください。このカートで道路を走行しますと、道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも、人や車が自由に出入り出来る場所は、一般の道路とみなされます。
- このカートは、カート専用コースを走行するために製作されています。特に、オフロードを走行するとフレーム、エンジン等に不具合を生じますので、走行しないでください。
- お子様が無断でこのカートに乗らないように、保管は十分注意してください。
- サビ等による不具合を防止するために屋内に保管してください。
- 高熱部分（エンジン、マフラ、ブレーキ）や回転部分（スプロケット、タイヤ）に触れないようにしてください。
- カート本体およびエンジンは、カート以外の用途に使用しないでください。また、カートエンジン以外のエンジンを搭載するとフレームに不具合を生じます。カートエンジン以外のエンジンは搭載しないでください。
- 改造は競技団体および出場クラスで定められているレギュレーション範囲でおこなってください。また、重要部品（ブレーキ、スロットル、ステアリング等）は改造しないでください。
- 本書の「走行前の点検整備」を参照して、走行前の点検を必ず実施してください。
- このカートを運搬する際は、安全のためフュエルタンク、キャブレタからガソリンを抜いてください。
- 密閉された場所では、決してエンジンをかけないでください。排気ガスは有害です。
- このカートに乗るときは、レギュレーションに合った安全な服装で乗車してください。



1. 道路で乗らないようにしてください。

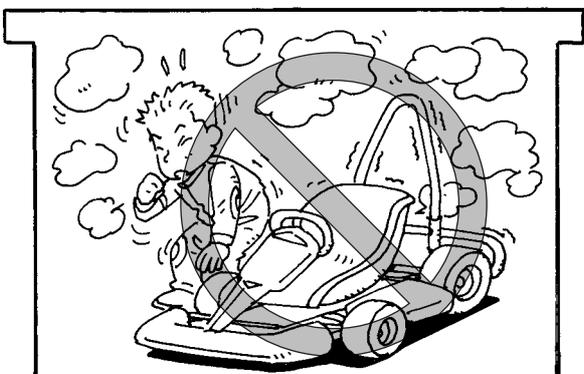
道路ではぜったいに運転してはいけません。レース場などの決められた場所で運転しましょう。

道路とは一般道路および道路の体裁をなしていないが人や車が自由に出入り出来るところ(広場、公園、学校の構内、社寺の境内、海辺等)をいいます。



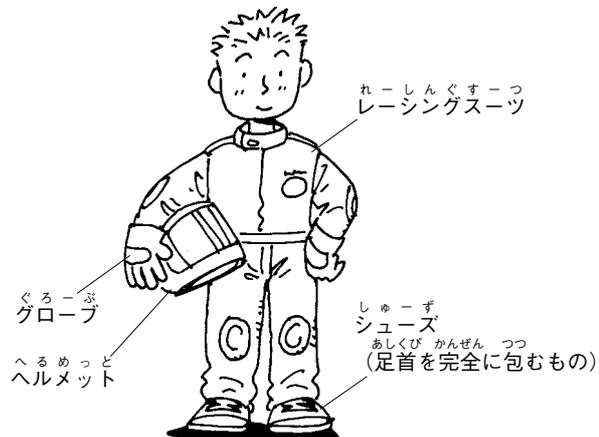
2. 建物のなかでエンジンをかけないようにしてください。

家のなかなどのしめきったせまい場所でエンジンをかけると排気ガスがでてたいへん危険です。また、うっかり走り出したりしたらたいへんです。ひろくて安全な場所にでてエンジンをかけましょう。



3. 必ずヘルメットをかぶり、安全な服装で乗ってください。

事故の時など、あなたの身を守るために、ヘルメットや安全な服装を身につけてから乗りましょう。



4. 乗るときは、ぜったいにひとりで行かないようにしてください。

カートを乗りに出かけるときは、カートライセンスを持ち、カートに関する知識を持った大人の指導、監督のもとで乗りましょう。





5. カートはひとり乗り。ほかの人を乗せて走らないようにしてください。

ひとり乗りにつくられたカートです。ふたりで乗るのは危険ですし、カートがこわれる原因にもなります。

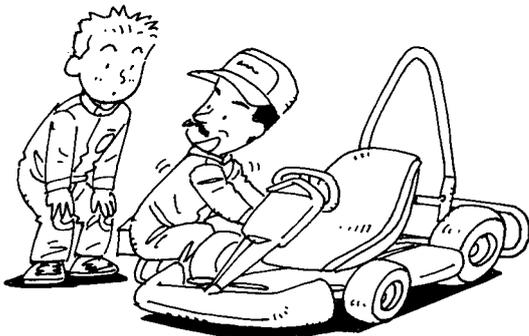


6. 正しい乗りかたを学びましょう。

はじめに、どのように乗るのが正しいかを学ぶことがたいせつです。ライセンス講習会を受けて、わからないことは、いっしょにいる大人の人に、しっかりききましょう。

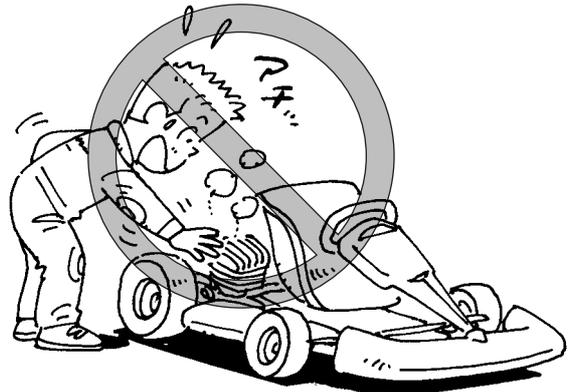


7. 乗るまえに、お父さんなどいっしょにいる大人の人に、「これならだいじょうぶ」というまで、しっかりカートを調べてもらいましょう。



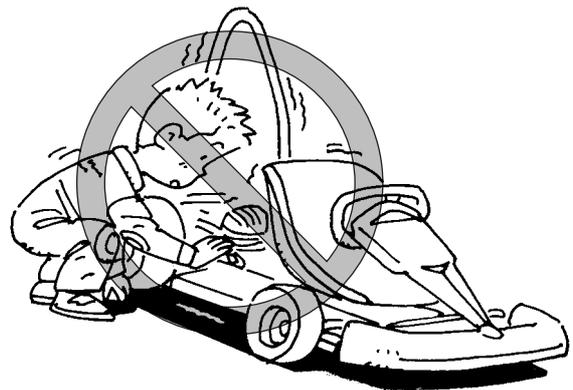
8. エンジンなど機械には、けっしてさわらないようにしてください。

走ったあとなどはエンジンやマフラ、ブレーキなどの機械はとても熱くなります。うっかり手や足がさわるとやけどをしますから注意しましょう。



9. まわったり、動いたりするところはさわらないようにしてください。

カートはエンジンなどがカバーされていませんので、まわったり動いたりするところにうっかりさわるとたいへん危険です。





重要ラベル貼付箇所

警告

カートを運転するときは以下に示す事項を必ず守って下さい。
守らなかった時は事故につながる可能性があります。

- ご使用前に必ず取扱説明書とラベルをよく読んで下さい。
- このカートは一人乗りです。
運転者以外に人を同乗させると安定を失い危険です。
- このカートは一般公道では走れません。
一般公道を走行するために必要な保安部品を装備していません。
- 正しい服装で運転して下さい。
ヘルメット、ゴーグル等の保護具を着用して下さい。
- 薬を服用した時は運転しないで下さい。

注意

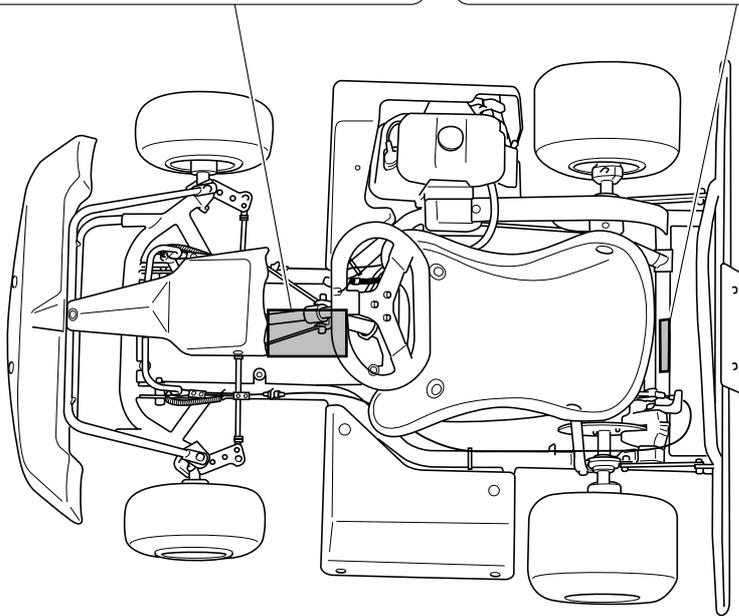
- 走行前の点検を必ず実施して下さい。
- 基本的な乗り方をマスターして下さい。
初心者は十分運転練習を行い、運転技術を習得した上で注意してお乗り下さい。

警告

エンジンをかける時は、必ずブレーキペダルを踏んで下さい。
ブレーキペダルを踏まないととび出し、追突等をする可能性があります。

警告

パッドとブレーキディスクの隙間を確認してください。
隙間が標準以上あるとブレーキが効かなくなります。

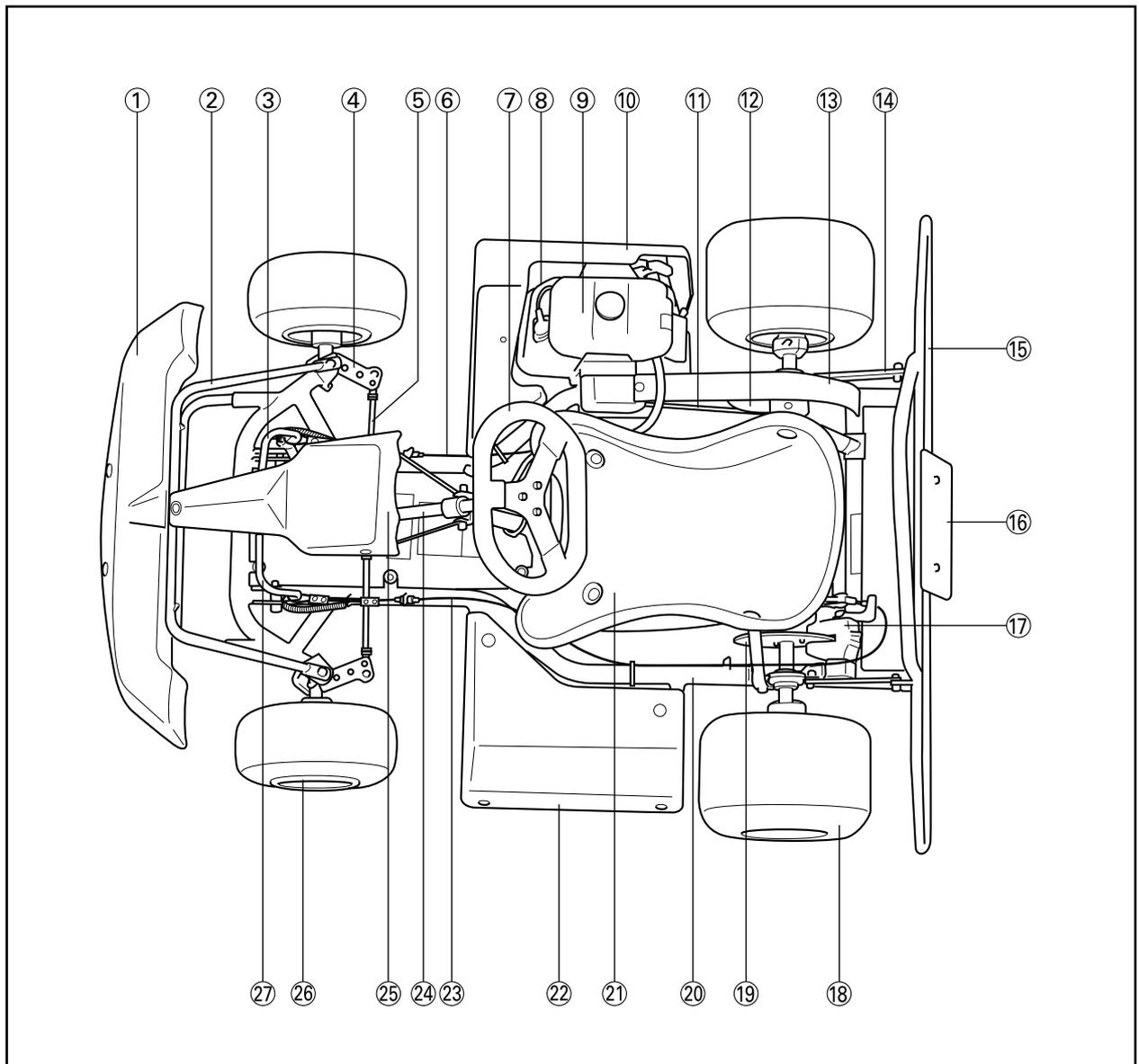




各部の名称

車体各部の名称

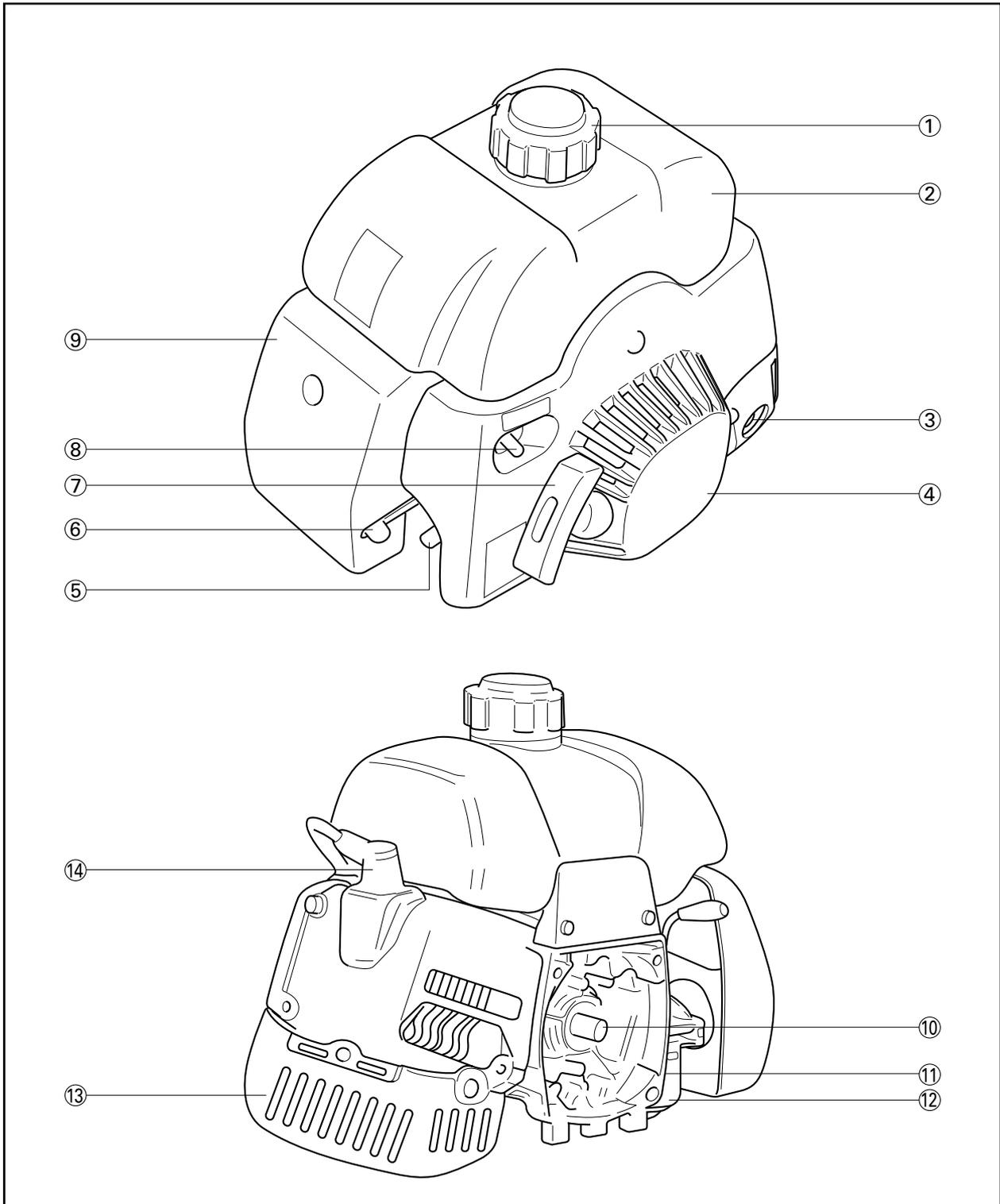
- | | |
|--------------|--------------|
| ① フロントフェアリング | ⑮ リヤバンパ |
| ② フロントバンパ | ⑯ ゼッケンプレート |
| ③ スロットルペダル | ⑰ キャリパ |
| ④ ステアリングナックル | ⑱ リヤホイール |
| ⑤ タイロッド | ⑲ ブレーキディスク |
| ⑥ スロットルケーブル | ⑳ フレーム |
| ⑦ ステアリング | ㉑ シートコンプリート |
| ⑧ エンジン | ㉒ サイドパネル (左) |
| ⑨ 燃料タンク | ㉓ ブレーキケーブル |
| ⑩ サイドパネル (右) | ㉔ ステアリングコラム |
| ⑪ チェン | ㉕ フロントパネル |
| ⑫ リヤスプロケット | ㉖ フロントホイール |
| ⑬ チェンガード | ㉗ ブレーキペダル |
| ⑭ リヤバンパステー | |





エンジン各部の名称

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ① 燃料タンクキャップ (燃料注入口) | ⑧ エンジンストップスイッチ |
| ② 燃料タンク | ⑨ エアクリーナ |
| ③ マフラ排気口 | ⑩ 出力軸 (クラッチ) |
| ④ リコイルスタータ | ⑪ エンジン号機打刻位置 |
| ⑤ 燃料コック | ⑫ 気化器 |
| ⑥ チョークレバー | ⑬ マフラ (マフラカバー) |
| ⑦ 始動ノブ | ⑭ スパークプラグ (スパークプラグキャップ) |





燃料の取り扱い

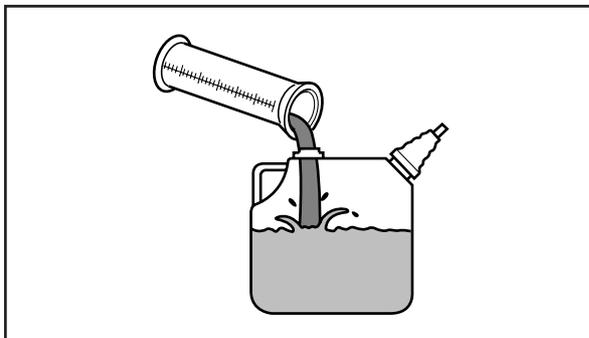
燃料の給油

使用燃料は混合ガソリン（ハイオクタンガソリンと混合用オイルを混合したもの）を使用してください。

使用ガソリン	ハイオクタンガソリン
混合用オイル	高性能2サイクル用オイル
混 合 比	20～25対1



ガソリン (ℓ)	オイル (cc)	
	20 : 1の場合	25 : 1の場合
1.0	50	40
2.0	100	80
3.0	150	120
4.0	200	160
5.0	250	200
6.0	300	240
7.0	350	280
8.0	400	320
9.0	450	360
10.0	500	400



警告

燃料を補給する時は、必ずエンジンを止めること。

- 火気は近づけないこと。また火気のそばでは、ガソリンの給油はしないこと。
- タンクキャップは止まる場所まで、確実に回すこと。完全にしまっていないと、走行中にゆるんでガソリンがにじみでることがあり、危険です。
- こぼれたガソリンは、布きれ等で完全に拭き取ること。

注意

- ガソリンはオクタン価98以上の無鉛プレミアムガソリンを使用すること。
- 混合用オイルの量が多すぎると、白煙やスパークプラグのかぶりなどの原因となり、少なすぎるとエンジン焼付きなどの原因となるので、ガソリンとオイルの混合比は必ず守ること。
- 添加剤は使用しないこと。レギュレーションにおいても禁止されている。

オイルと混合ガソリンの取扱い

混合したガソリンは長時間放置しておくとう潤滑性が悪くなるので、24時間以内に使用するよう心掛けてください。

走行後、余った燃料はタンクより抜き取っておくこと。2日以上使用しない場合は部品洗浄用などに使用してください。

植物性オイルは鉱物性オイルに比べてガソリンとの分離性が強いので、良くかくはんして混合してください。特に冬場での使用は念入りに十分に混合してから使用してください。

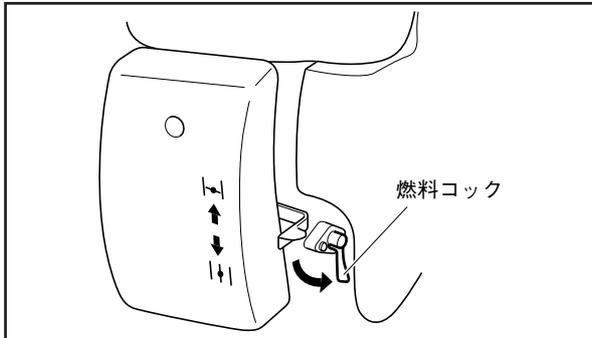
植物性オイルは鉱物性オイルの比べて酸化性が強く酸化すると潤滑性が低下するので一度缶を開けたものは一度に使用してください。

植物性オイルと鉱物性オイルの混合はしないでください。

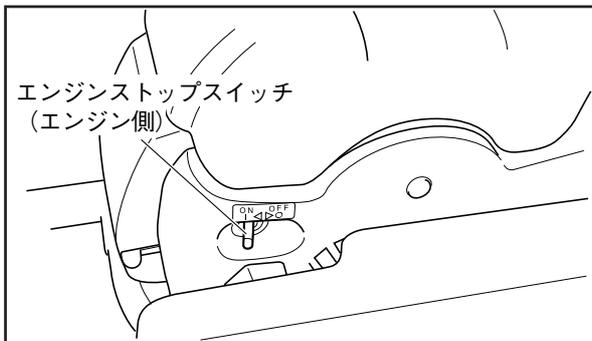


エンジンの始動方法

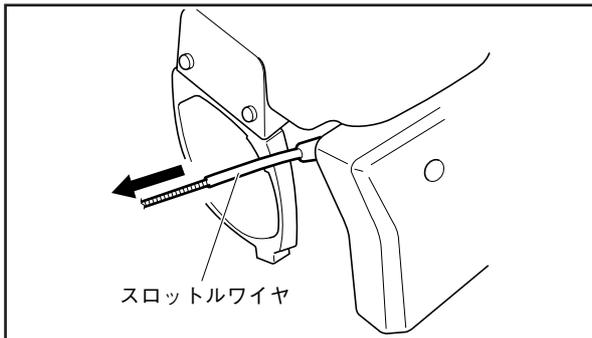
1. 操縦者をシートに座らせます。
2. 燃料コックを開きます。



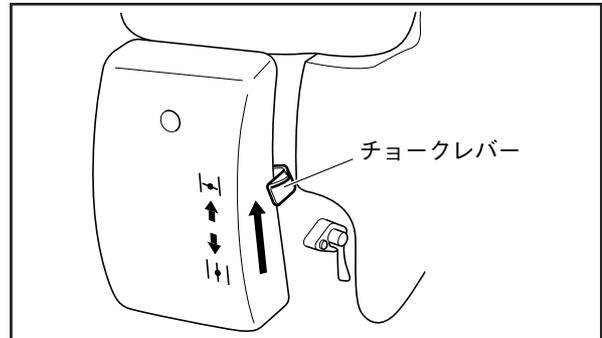
3. エンジン本体のストップスイッチを「ON」側にしてください。



4. スロットルワイヤを 1/3 ~ 1/2 程高速側に操作してください。



5. チョークレバーを閉じます。
 チョークの開度は
 - 寒い時やエンジンが冷えている時は「全開」にします。
 - 暖かい時や運転停止直後再始動する場合は「全開」もしくは「半開」にしてください。

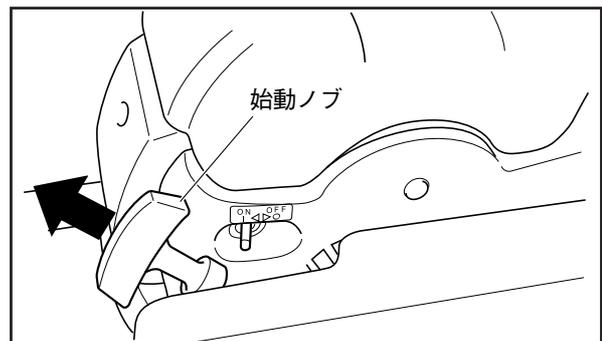


6. ブレーキペダルを踏みます。

7. 始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所（圧縮点）があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢いよく引張ります。

要 点

ロープは一杯に引ききらないでください。
 引いた始動ノブは、その位置から手放さずに静かに元に戻してください。



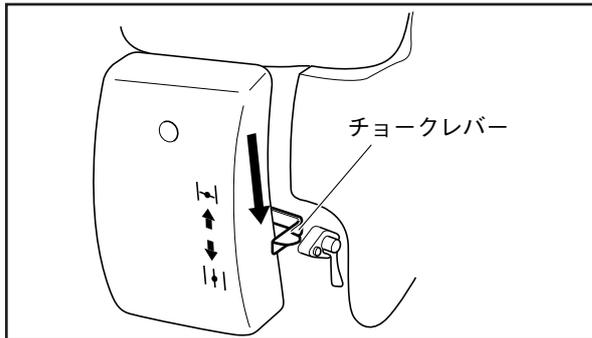


9. エンジンが始動したらチョークレバーを開きます。

- チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず「全開」にしてください。

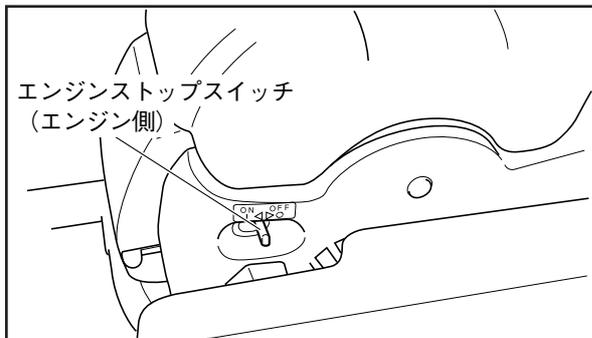
注意

寒い時またはエンジンの冷えている時に、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する事があります。



エンジンの停止

エンジン本体のストップスイッチを「OFF」側にして停止します。保管時や運搬時には燃料コックを閉じてください。



ならし走行

ならし走行は、各部品の回転部分や摺動部分および取付け部をなじませるためと、カータ自身がカートになれるための重要な走行です。

順序	時間	備考
1	3~5分	スロー走行をする。
2	10~15分	半開走行をする。
	15分	各部の増締め、調整、オイル漏れ、その他異状がないか点検する。
3	15~20分	時々全開走行をする。
	15分	各部の増締めをする。
4	5~10分	標準キャブレタセッティングで走行する。

要 点

- 上記の表は標準ならし走行です。エンジンピストンクリアランス等の条件によりならし走行時間が異なります。
- エンジンが冷えるまで必ず休憩をとってください。
- 新車ならし走行は、各部のボルト、ナット類がゆるみやすいので必ず走行毎に増締めを行なってください。
- シリンダ、ピストン、ピストンリング、ビックエンドベアリング、クランク等のエンジン関係部品を交換した場合は必ずならし走行を行なってください。



仕様諸元

営業呼称		Amigao		車	フレームサイズ		ST52 φ27×t1.8	
機種コード番号		KID1			トーン		0 mm	
車体打刻開始番号		KID - 0001		体	ブレーキ型式	後	機械式ディスク	
寸法及び重量	全長	1315 mm			タイヤサイズ	前	3.6/10.0-5	
	全巾	1040 mm以下			タイヤサイズ	後	6.0/11.0-5	
	軸間距離	735 mm			タイヤ空気圧	前	120 kPa (1.2 kg/cm ²)	
トレッド	前	700~760 mm		タイヤ空気圧	後	120 kPa (1.2 kg/cm ²)		
	後	750~830 mm		減速比	歯数		9T/96T	
乾燥重量		41 kg			比		10.7	
原動機	原動機種類	2サイクル、空冷、傾斜形リードバルブ		ドライブチェーン	型式	25H		
	総排気量	40.2 cm ³			メーカ	大同工業(株)		
	内径×行程	40×32 mm			駒数	150リンク		
	最大出力	1.47 kW(2.0 PS)/7000 rpm			たわみ量	10~15 mm		
	回転方向	左(出力軸側より見て)		スクロップトルル	スロットルペダルの遊び		2~5 mm	
	使用燃料	潤滑油混合ガソリン			ブレーキ	ディスクの厚さ	標準値	3.2 mm
	燃料タンク容量	1.1 l		使用限度			2.5 mm	
	使用潤滑油	2サイクル専用オイル		パッドの厚さ		標準値	7.6 mm	
	気化器	フロート式				使用限度	1 mm	
	点火方式	無接点式マグネット点火		パッドとディスクのクリアランス		2.5 mm		
始動方式	リコイル式		ブレーキペダルの遊び		2~5 mm			
機	潤滑方式	燃料混合潤滑式		スパークプラグ	型式	BPM7A		
	乾燥重量	3.5 kg			メーカ	NGK		
					プラグギャップ		0.6~0.7 mm	



新車の組立

▲注意

お客様へ

この章は、Vivoレーシングカートの梱包状態から完成車への組立、点検方法を記載しています。
なお、Vivoレーシングカートの組立、点検はお買上げのカートショップへお申し付けください。

カートショップ様へ

カートショップの方は、本体の組立後、本書内第3章の点検・調整編に準じて、点検、調整を行ない、お客様へ配送して下さい。

記載内容の見方

この章では、下記のような書式により部品の説明をしています。

部品表

イラスト番号	部品名	個数	部品の特徴

部品の特徴

部品サイズ、材質、形状

下記のような部品サイズの表現をしています。

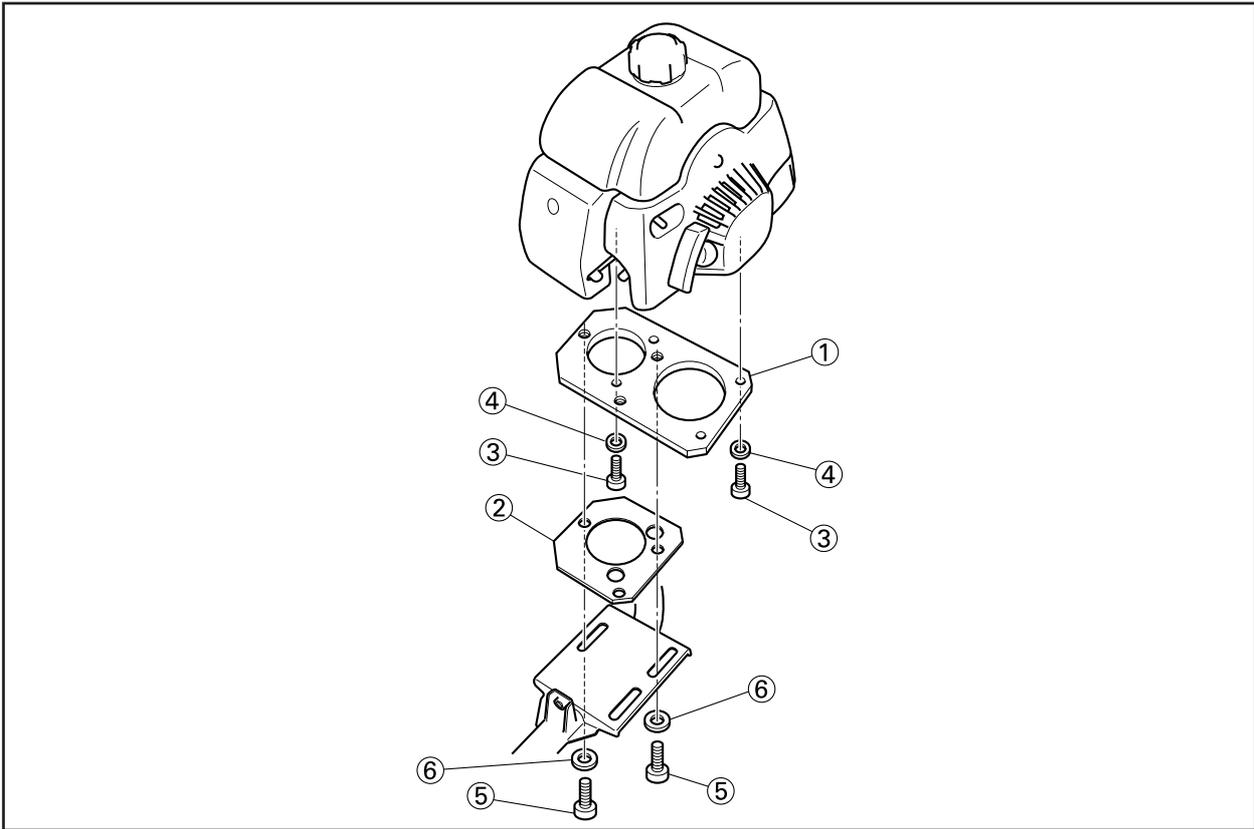
d / D : 部品直径

ℓ : 部品長さ

例. 5 = 5 mm



1. エンジンの組付け

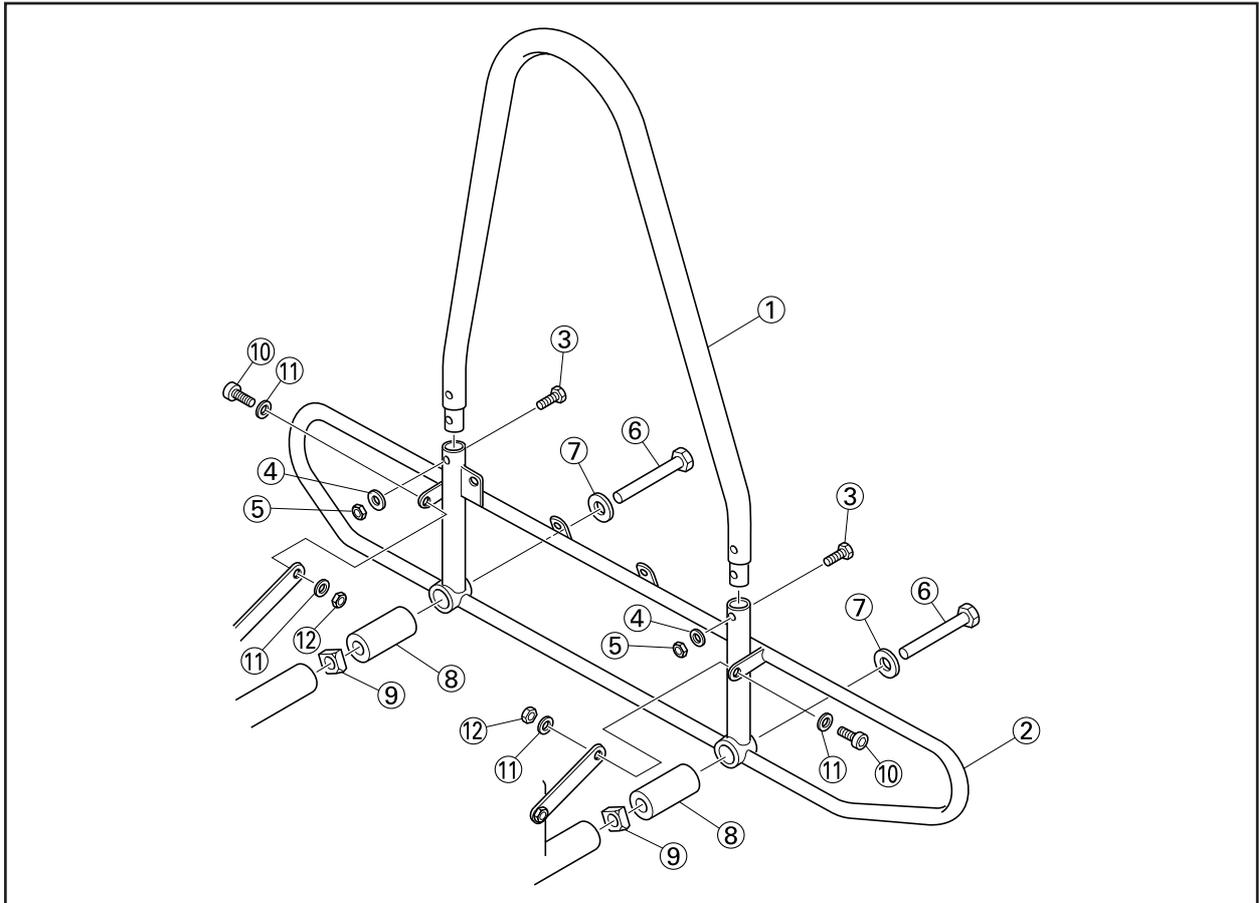


部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	エンジブラケット	1	
2	スペーサ	1	
3	ソケットヘッドボルト	4	d=6 $l=20$
4	ワッシャ	4	
5	ソケットヘッドボルト	3	d=8 $l=25$
6	ワッシャ	3	d=8.5 t=3



2. リヤバンパの組付け

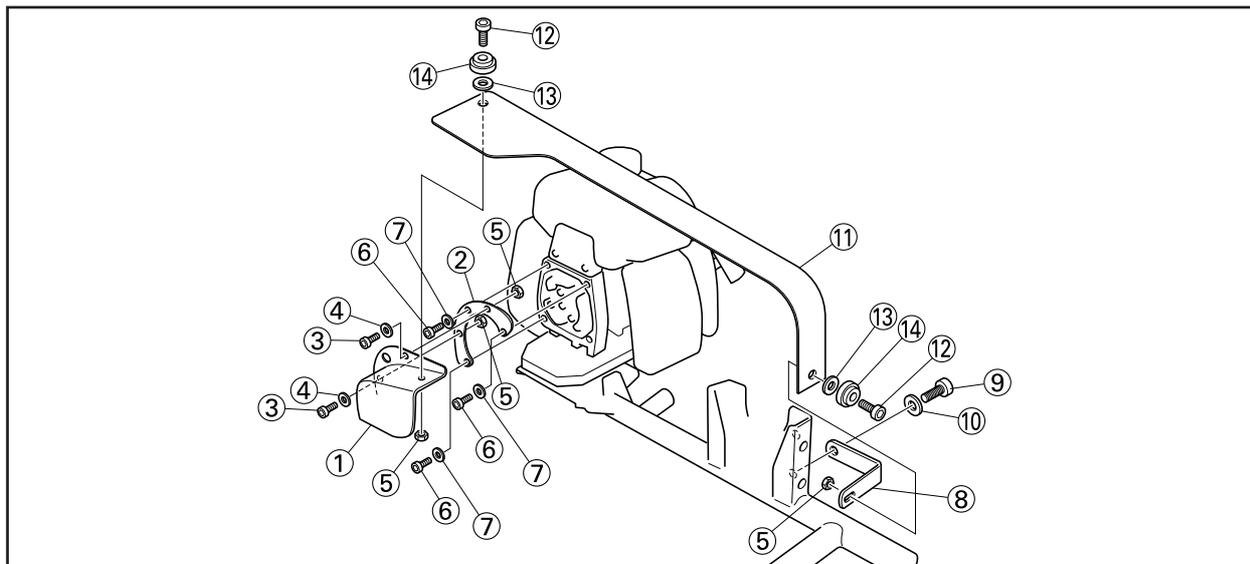


部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	リヤバンパ1	1	
2	リヤバンパ2	1	
3	ソケットヘッドボルト	2	d=6 ℓ=30
4	ワッシャ	2	d=6.5
5	ナット	2	d=6
6	ソケットヘッドボルト	2	d=8 ℓ=110
7	ワッシャ	2	d=8.5
8	ダンパ	2	
9	ナット	2	
10	ソケットヘッドボルト	2	d=8 ℓ=20
11	ワッシャ	4	
12	ナット	2	



3. チェンガードの組付け



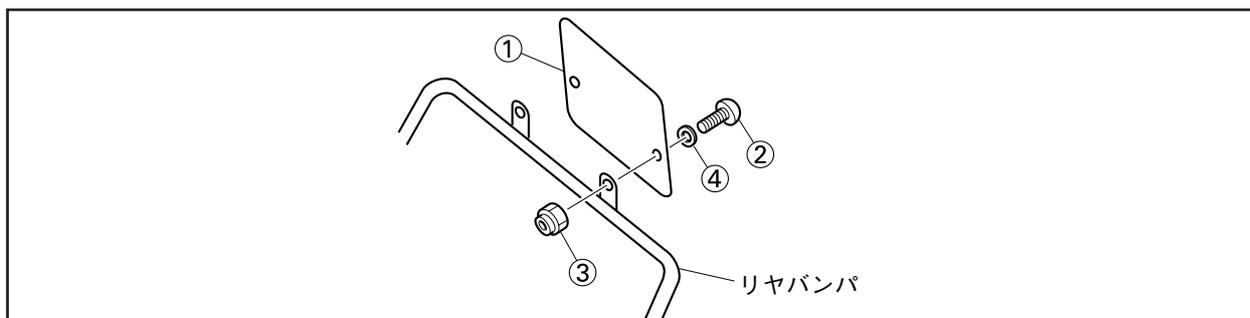
部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	チェンガード1	1	
2	プレート	1	
3	ソケットヘッドボルト	2	d=6 l=16
4	ワッシャ	2	d=6.5
5	ナット	4	d=6
6	ソケットヘッドボルト	4	d=6 l=30
7	ワッシャ	4	d=6.5
8	ステー	1	
9	ソケットヘッドボルト	1	d=8 l=20
10	ワッシャ	1	d=8.5
11	チェンガード2	1	
12	スクリュ	2	d=6 l=16
13	ワッシャ	2	
14	ロゼット	2	d=6

1. チェンガード2の組付けは、チェンラインに合わせてチェンガード2を適当な長さにカットし、孔を開けて組付けます。

※チェンガード2のカットはエンジン組付側の反対側をカットすること。

4. ゼッケンプレートの組付け

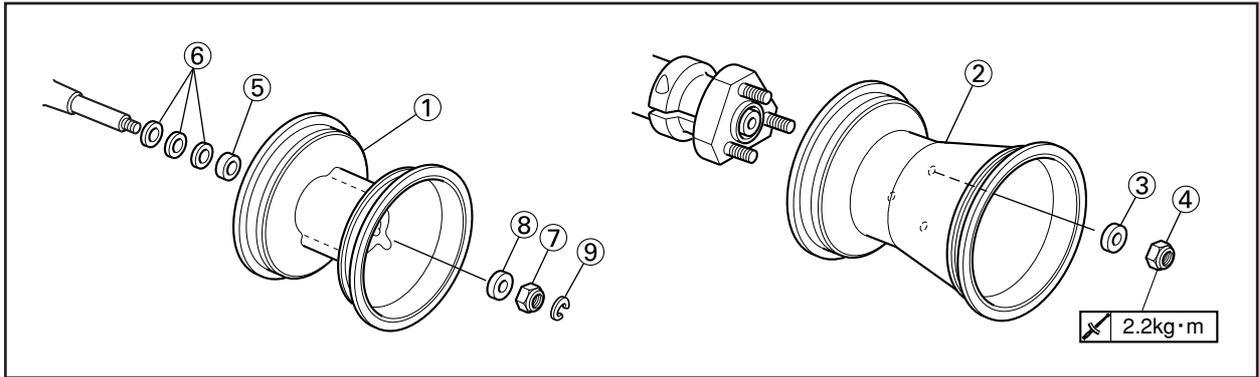


部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	ゼッケンプレート	1	
2	スクリュ	2	d=6 l=20
3	ナイロンナット	2	d=6
4	ワッシャ	2	d=6.5



5. ホイールの組付け

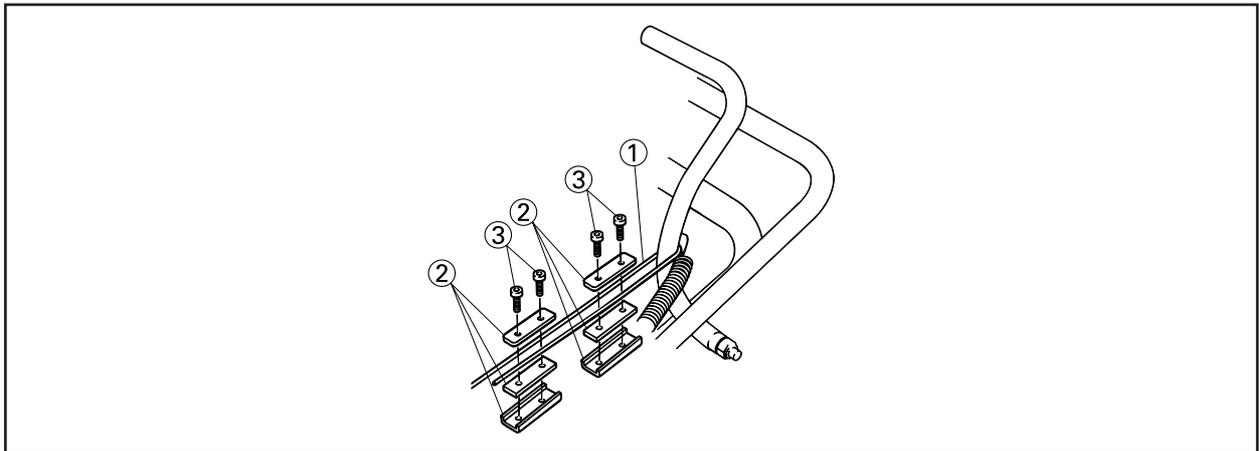


部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	フロントホイール	2	
2	リヤホイール	2	
3	プレートワッシャ	6	車輻に組み込まれている部品 d=8.5
4	ナット	6	車輻に組み込まれている部品 d=8
5	カラー1	2	t=9.5
6	カラー2	6	t=7.5
7	ナット	2	ナイロンナットを使用のこと d=14
8	ワッシャ	2	d=14.5
9	サークリップ	2	

1. イラスト番号7のナットはカラーにガタがなく、フロントホイールが手で軽く回るように締付けます。

6. スロットル、ブレーキケーブルの組付け



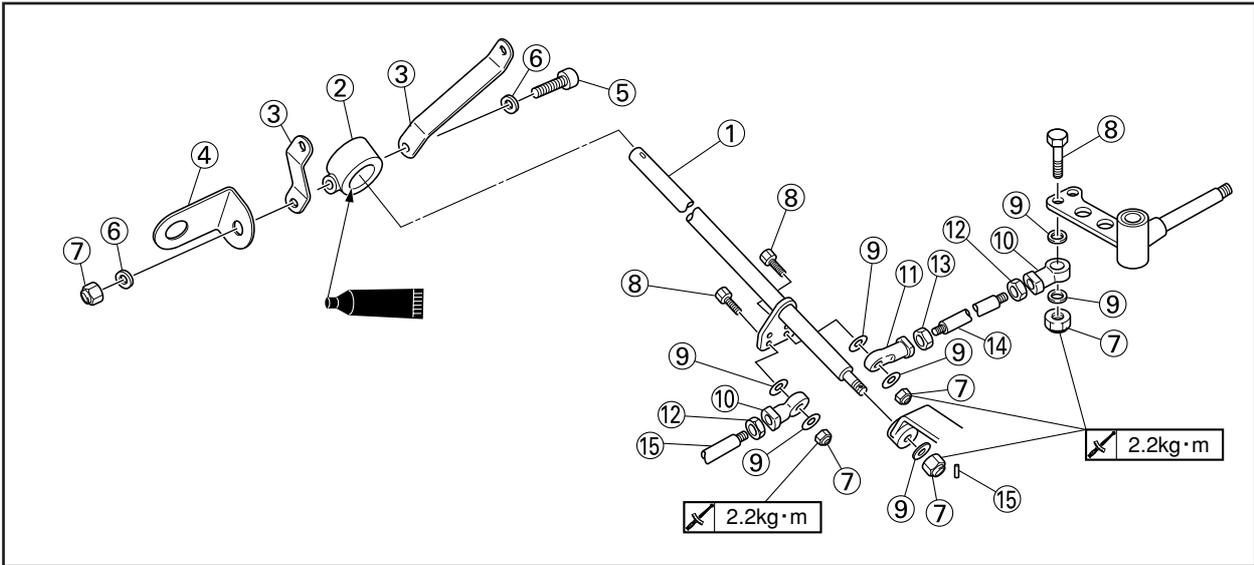
部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	スロットル、ブレーキケーブル	各1	
2	ケーブルジョイント	各2	
3	ボルト	各4	d=4 ℓ=8

1. スロットル、ブレーキケーブルの通しは“ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図”参照
2. スロットルケーブル組付け/調整後、からげ線を行ないます。
3. スロットルワイヤケーブルジョイントはプロテクタに引掛らない位置に取付のこと。



7. ステアリングシャフト、タイロッドの組付け



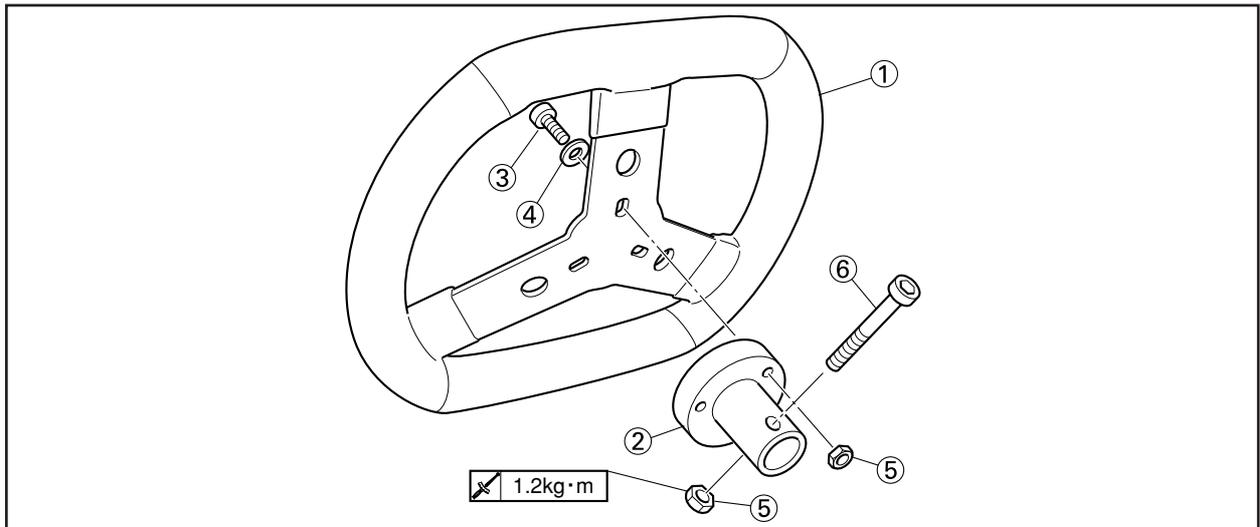
部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	ステアリングコラム	1	車輻に組込まれている部品
2	ステアリングベアリング	1	
3	フロントパネルステー上 (ブラケット9)	2	
4	ストップスイッチブラケット	1	
5	ソケットヘッドボルト	1	d=8 l=65
6	ワッシャ	2	d=8.5
7	ナット	6	d=8
8	ソケットヘッドボルト	4	d=8 l=35
9	スペーサ	9	
10	ユニバーサルジョイント1	2	右ネジ
11	ユニバーサルジョイント2	2	左ネジ
12	ヘキサゴンナット	2	d=8 右ネジ
13	ヘキサゴンナット	2	d=8 左ネジ
14	タイロッド	2	
15	ピン	1	

1. イラスト番号15のピンはイラスト番号1のステアリングコラムに差し込み後、確実に折り曲げます。



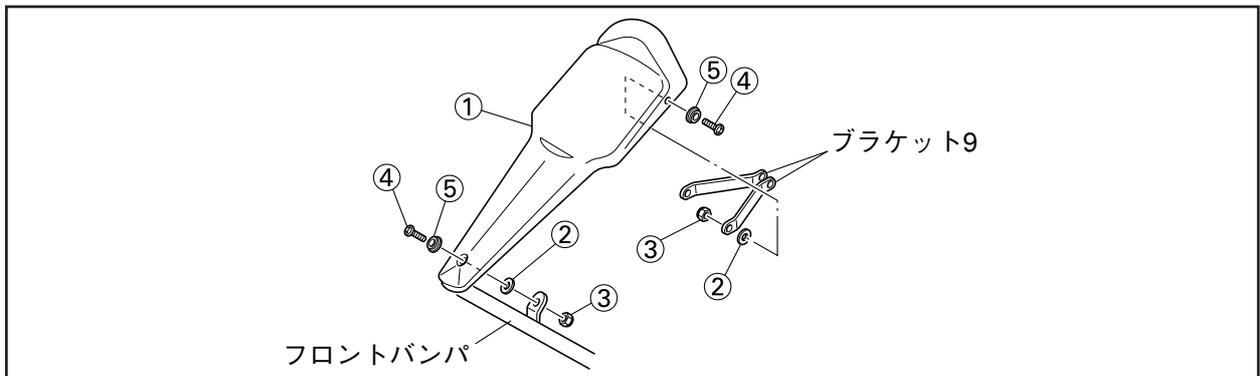
8. ステアリングホイール（ハンドル）の組付け



部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	ステアリングホイール	1	
2	ステアリングボス	1	
3	ソケットヘッドボルト	3	d=6 ℓ=20
4	ワッシャ	3	d=6.5
5	セルフロックナット	4	d=6
6	ソケットヘッドボルト	1	d=6 ℓ=35

9. フロントパネルの組付け

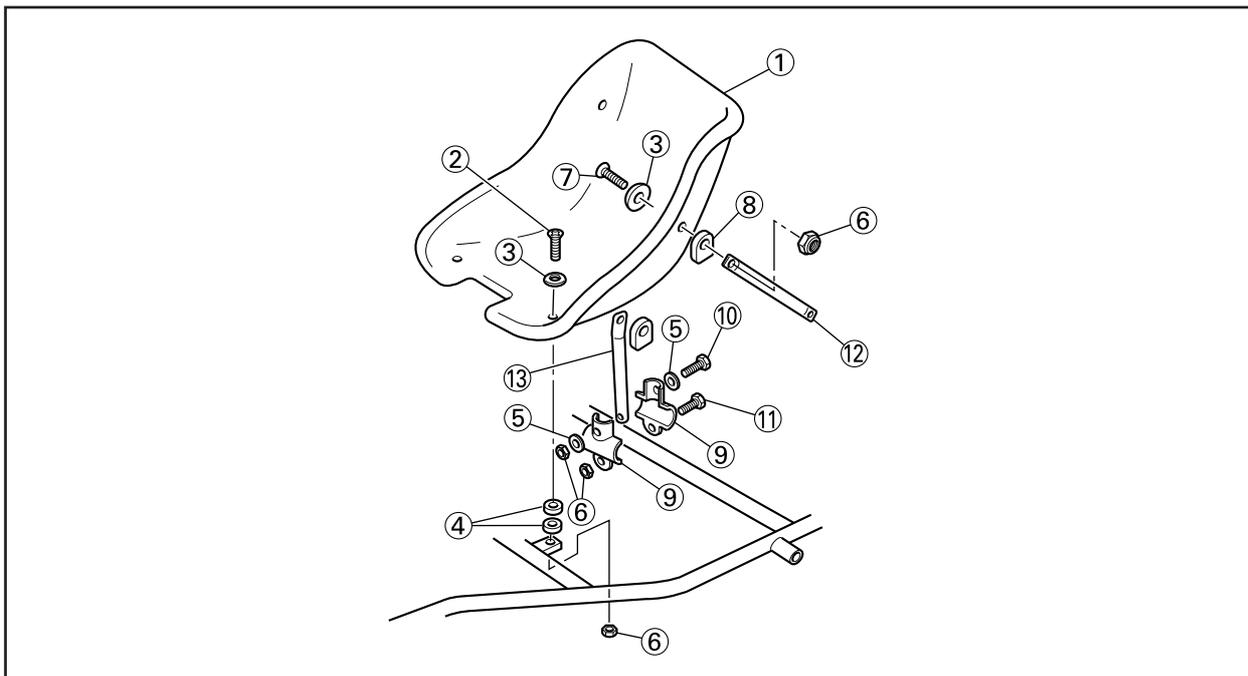


部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	フロントパネル	1	
2	ゴムワッシャ	3	d=6
3	ナイロンナット	3	d=6
4	フラットヘッドスクリュー	3	d=6 ℓ=16
5	ロゼット	3	d=6



10. シートの組付け



部品表

イラスト番号	部品名称	個数	部品の特徴
1	シートコンプリート	1	
2	フラットヘッドスクリユウ	2	d=8 l=55
3	ロゼット	4	
4	シートスペーサ	4	
5	ワッシャ	2	d=8.5
6	ナイロンナット	6	
7	フラットヘッドスクリユウ	2	d=8 l=30
8	ダンパ	2	
9	ブラケット	1	
10	ボルト	1	d=8 l=35
11	ボルト	1	d=8 l=20
12	リヤステー	1	
13	リヤステー	1	

組付け手順

要 点

シートコンプリートには、取付け孔は開いていません。

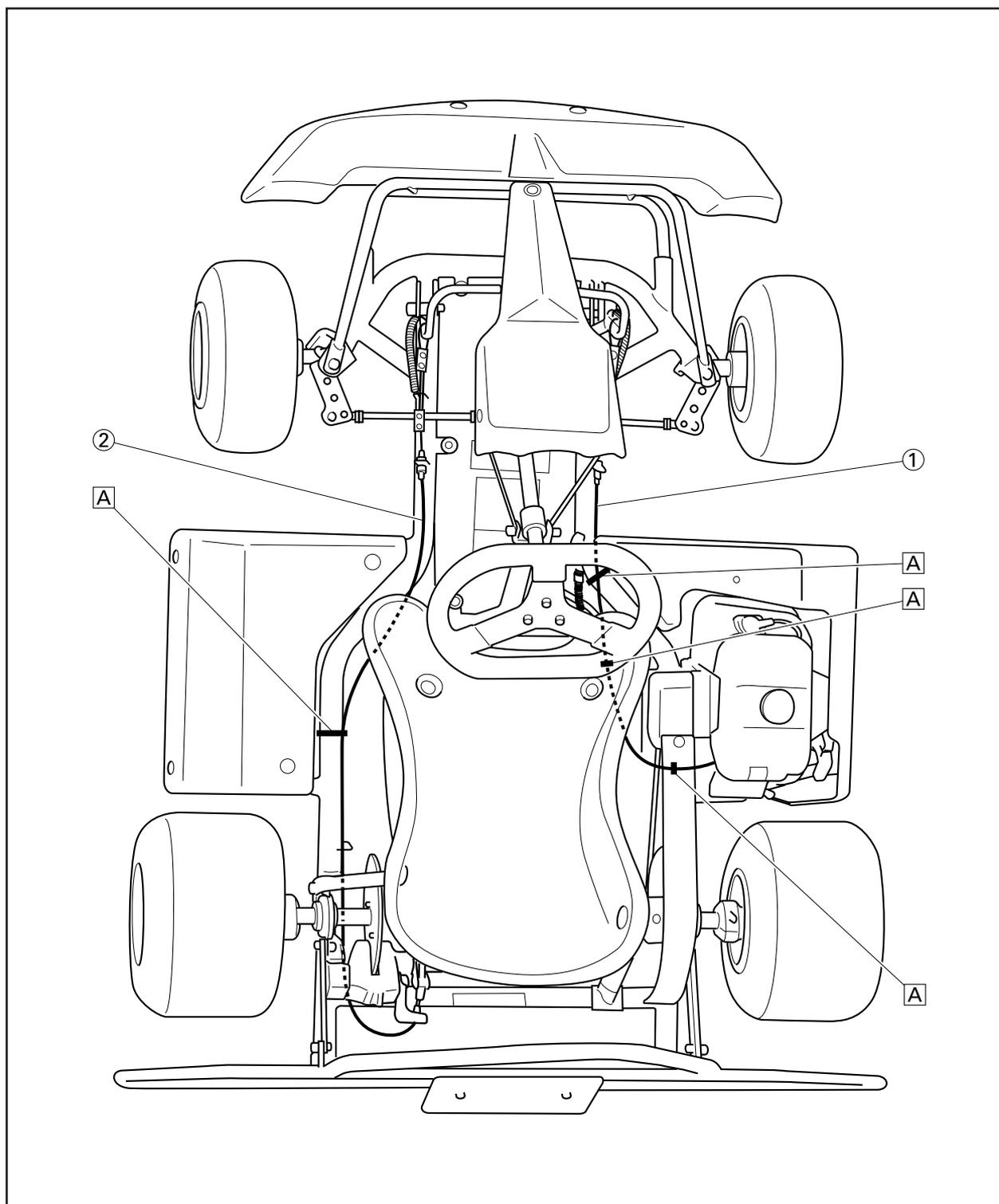
1. シートステーをフレームに仮締付けします。
2. シートコンプリートを組付けます。
3. カーターのポジションに合わせてドリルで取付け孔を開けます。
4. シートブラケット、リヤステーを締付けます。
5. シートにすわり、ポジションは良いか、ガタはないか点検します。



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

- ① スロットルケーブル
- ② ブレーキケーブル

A フレームとクランプする。



点検・交換一覧表

点検
調整



項目	慣らし運 転終了後	1走行 毎	1レース 毎	3レース 毎	5レース 毎	必要に 応じ	シーズン 使用後	備 考
			100km走 行に相当	300km走 行に相当	500km走 行に相当		1000km走 行に相当	
車	チェン 点検 給油 交換	○	○					伸び、各部変色 チェンオイル使用のこと
	ドリブンスプロケット 点検 交換	○		○				
体	リヤバンパ 点検 増締め	○		○				脱落
	外観のボルト、ナット類 増締め	○		○				

運転時間		8時間	50時間	200時間
		エ	各部の清掃及び、締付点検	○
ン	スパークプラグの点検	○		
ン	エアクリーナの清掃	○		
ジ	マフラーのカーボン除去		○	
ン	排気ポートのカーボン除去			◎
	燃料ホースの交換			◎
	エンジンのオーバーホール			◎

※運転時間は普通の場合です。

◎印の200時間の点検項目は販売店に依頼してください。

使用頻度に関わらず、燃料ホースは1年で交換してください。燃料漏れは引火する危険があります。

なお、点検時漏れなどのあるものは即交換してください。



レース参加時の重点点検箇所

部品名称		故障	対 策 内 容
チェン		脱落	給油の実施と、張り調整をヒート毎に行なう
ホイール	フロント リヤ	脱落 脱落	走行毎に締付けを確認する 走行毎に締付けを確認する
タイヤ	フロント リヤ	エア圧 エア圧	走行毎に空気圧を確認する 走行毎に空気圧を確認する
ブレーキ	パッドクリアランス	ノーブレーキ	走行毎にブレーキクリアランスを確認する
ペダル	アクセル ブレーキ	遊び 遊び	走行毎に遊びを確認する 走行毎に遊びを確認する
ナンバプレート		脱落	ネジ以外にタイラップ等でも固定する
フロントバンパ		脱落	ネジ以外にタイラップ等でも固定する
リヤバンパ		脱落	ネジ以外にタイラップ等でも固定する

オイル、グリース塗布箇所

オイル、グリース塗布箇所	オイル、グリースの区別、種類
ブレーキペダル、スロットルペダル軸受部	ヤマハグリースB (推奨)
キングピンボルト外周面	〃
スロットルケーブル/ブレーキケーブル	ヤマハME-1 (防錆潤滑油) (推奨)
ドライブチェン	〃 (チェンループ) (推奨)



ならし走行後の点検

ならし走行終了後は、念入りな点検整備を行ない、次の練習走行やレース走行に備えるようにしてください。(点検の要領はP 3-7以降を参照)

主な点検の内容

●車体関係

1. フレーム、エンジンスター等各溶接部分や取付け部分に亀裂やクラック等の異状がないか。
2. ホイール
ホイールの振れはないか、ナットにゆるみはないか。
3. ブレーキ
ブレーキペダルの遊び調整。
4. ケーブル
ケーブル類への給油と調整。
5. ドライブチェン
ドライブチェンへの給油と張り調整。
6. 燃料タンク内の清掃。ゴミづまり、漏れがないか。
7. スプロケット
スプロケット取付けにゆるみがないか。
8. 各取付けボルト、ナット類
各取付け部にゆるみがないか。

9. グリース、オイル給油
必要箇所は必ず給油すること。(P 3-3参照)
10. その他
「走行前の点検」の内容項目について、十分に点検整備を行なう。

▲注意

ならし走行後および1レース走行前には、増し締めを必ず行なうこと。



走行前の点検

新車ならし走行および練習走行やレース走行の直前には、必ず整備状態の確認を行ない万全を期してください。

一般点検整備

1. スロットルペダル
ペダルの遊び量は適切か。ペダルをフルストロークさせたとき、スロットルバルブが全開になるか、その時ペダルのストッパボルトは適切に働いているか、また作動はスムーズか、引掛りは無いか。
 2. ブレーキペダル
ペダルの遊びは適切か。効き具合は良いか、また作動はスムーズか。
引掛りは無いか。
 3. 燃料
新しい混合ガソリンが十分に入っているか。
 4. チェン
張り具合は良いか。給油は十分か。
 5. タイヤ、ホイール
タイヤ空気圧は適正か。摩耗具合はどうか。
ナットのゆるみは無いか。振れは無いか。
 6. ステアリング
作動はスムーズか。ガタは無いか。
 7. 各取付ボルト、ナット類
車体各部、エンジンマウント部等の各取付け部にゆるみは無いか。
 8. ガソリンの漏れ
燃料タンク、燃料ホースに漏れは無いか。
 9. 各配線コネクタ
エンジンストップスイッチの接続は確実か。
 10. エンジン
エアクリーナエレメントに汚れは無いか。
各部ボルトのゆるみ、破損は無いか。異常振動・異常音は無いか。
 11. セッティング
走行当日のコース状況（コース路面、天候）および練習走行結果よってのセッティング調整や不具合点の点検整備は完全に済ませたか。
- ※ 普段の点検整備を十分に実施し、レース場ではその確認と簡単なセッティング調整ぐらいにして、ゆとりを十分に持って、時間を有効に使うようにします。



長期保管する場合

気化器内の燃料を使い切る

長時間エンジンを使用しないと、気化器内に残った燃料が変質し気化器内をつまらせる恐れがあります。

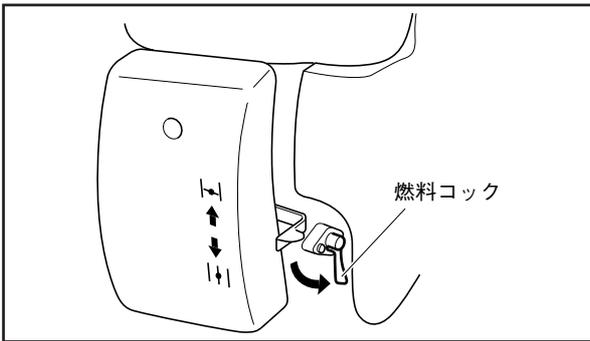
次の手順で防止してください。

1. エンジンを始動させた後、燃料コックを「閉」にします。
2. 気化器内の燃料を使い切り、エンジンが自然に停止するのを待ちます。

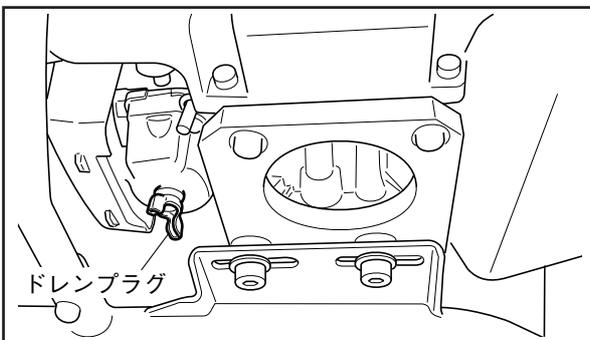
燃料を抜く

一ヶ月以上、エンジンを使用しない場合は、燃料の変質による始動不良または運転不調にならないように、次の手順で燃料を抜き、湿気の少ないところに保管してください。

1. 燃料コックを「開」にします。

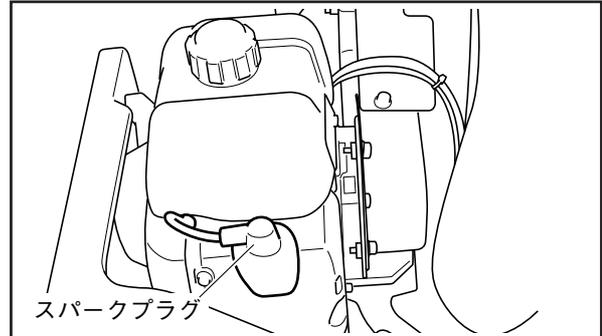


2. 気化器のフロート室下部に受け皿を当て、ドレンプラグを外し燃料を抜いてください。



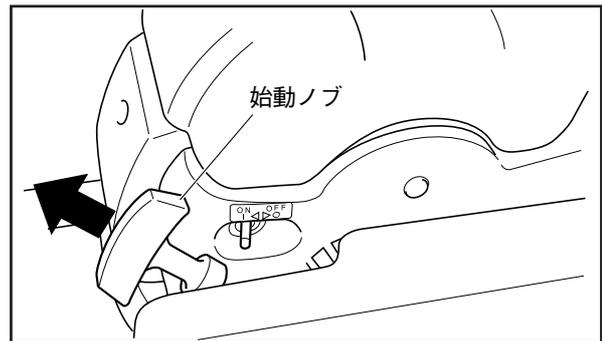
注油する

スパークプラグを外し、エンジンオイルを約 2 ml 注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに 2～3 回引き、スパークプラグを締付けてください。



清掃して格納する

エンジン内部への外気（湿気）の侵入を防ぐ為、リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き、重くなった所（圧縮点）で止めておきます。



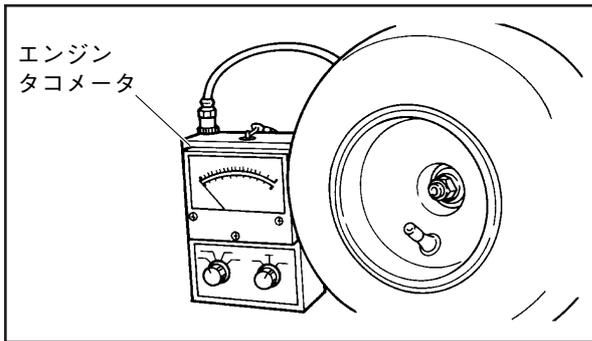
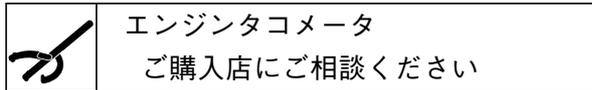
各部を油布で清掃し、カバーをかけて湿気、ホコリの少ないところに格納してください。



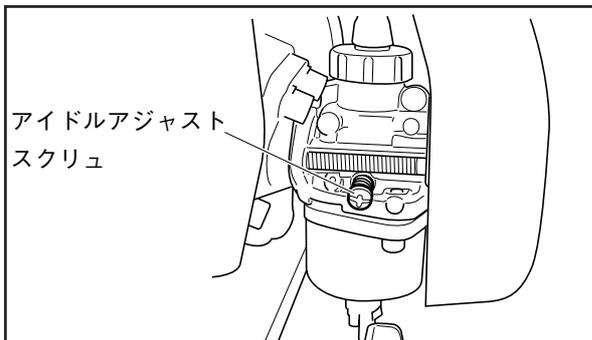
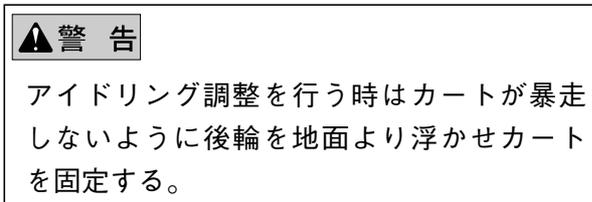
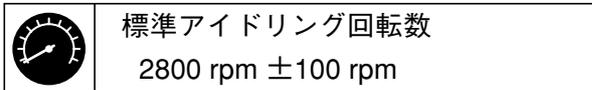
エンジン

アイドリングの調整

1. 暖気運転を行いません。
2. エンジンタコメータをセットします。
エンジンタコメータのクリップをハイテンションコードに取付けます。

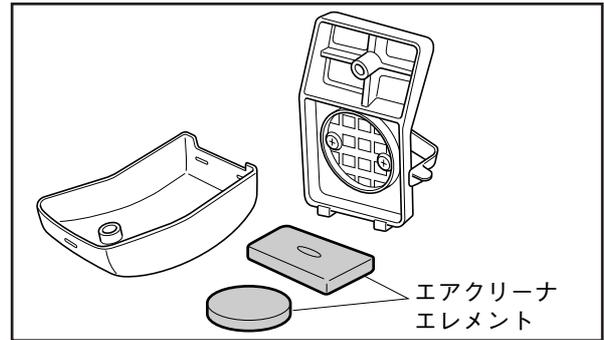


3. アイドルアジャストスクリュの調整をします。
締め込むとアイドリングが高くなり、戻すと低くなります。

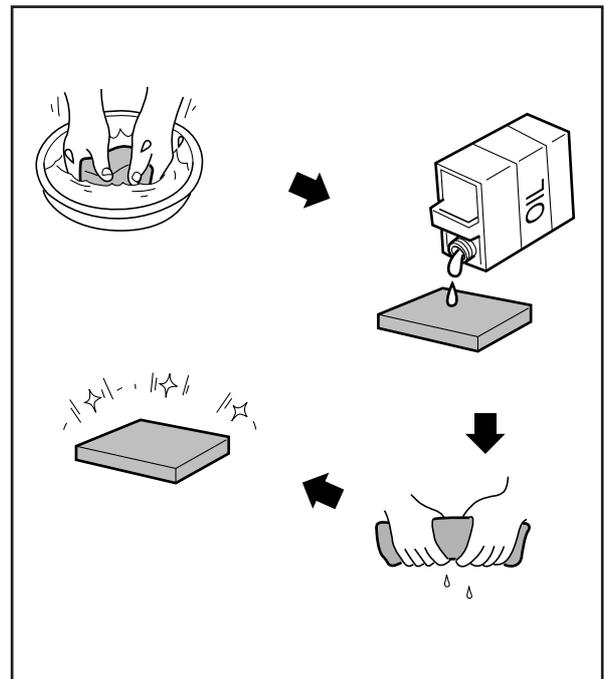


エアクリーナの清掃

空気中の塵埃を取除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。
いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けてください。



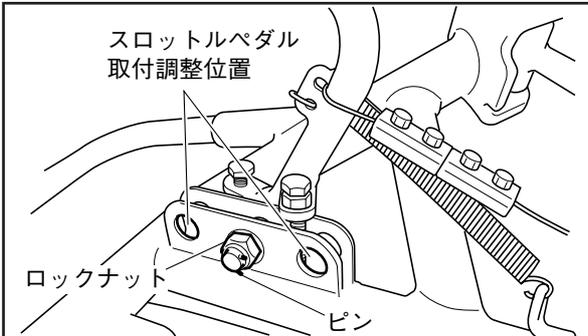
エレメントの清掃は、エレメントを取り出し、白灯油で洗浄後、白灯油3：エンジンオイル1の割合の混合油に浸し、固く絞って取付けます。





スロットルペダル取付位置の調整

- スロットルペダル取付位置を調整をします。ピンを外し、ロックナットを取外して、ペダルの位置を調整します。ロックナットで固定後、ピンで固定します。

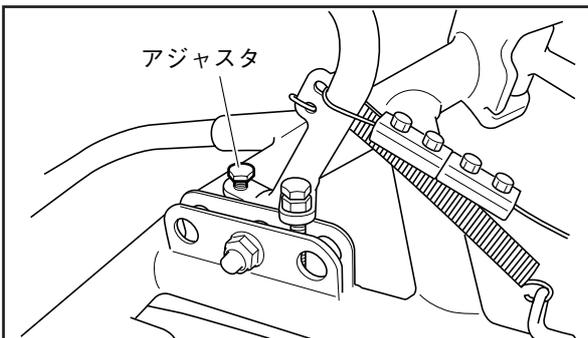


要 点

調整後、スロットルペダルの遊びを調整する。

スロットルペダル開度の調整

- スロットルペダル全開の調整をします。アジャスタにて調整します。



警告

ドライバーの技量に応じたスロットルペダルの調整を行なうこと。初心者の場合は最初から全開にしないこと

要 点

調整後、スロットルペダルの遊びを調整する。

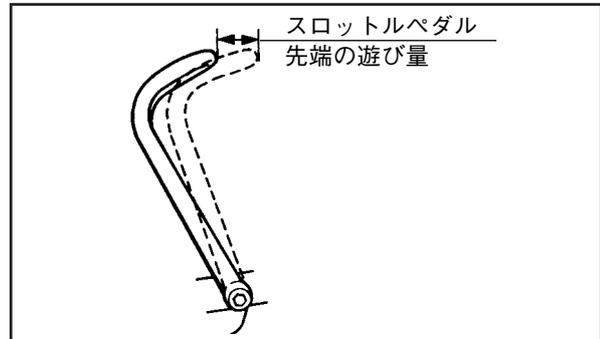
スロットルペダル遊びの点検、調整

- スロットルペダル先端の遊び量を点検します。

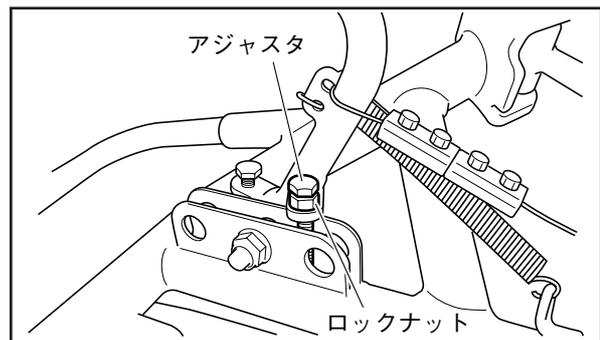


スロットルペダル先端の遊び量
2~5 mm

規定値以外は調整します。



- スロットルペダル先端の遊び量を調整します。ロックナットをゆるめ、アジャスタで調整します。





電装

スパークプラグ点検

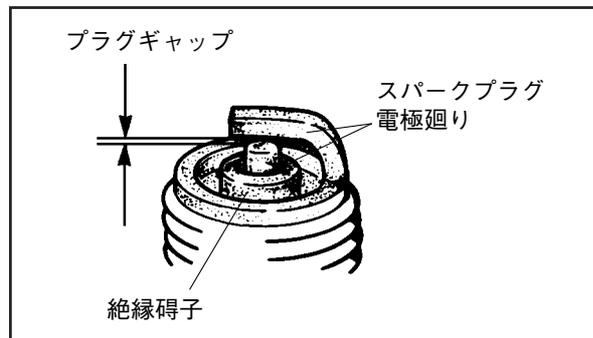
1. スパークプラグを取外します。
2. スパークプラグ電極廻りの点検をします。
汚れ、堆積物のあるものはプラグクリーナ、ワイヤブラシ等で清掃し、焼損のあるものは交換します。
3. 絶縁碍子の色は淡いきつね色が正常です。
4. プラグギャップを測定します。

	プラグギャップ 0.6~0.7 mm
---	-----------------------

規定値外の場合は側方電極を曲げて調整します。

要 点

低回転で長時間走行すると、絶縁碍子の色はエンジン、キャブレタが正常でも黒くなることがある。

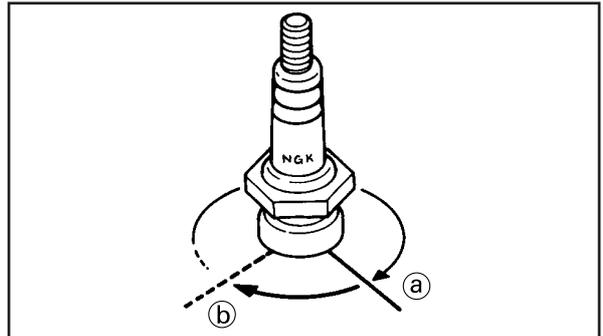


5. スパークプラグを組付けます。
指先で一杯に締付けて①から規定トルク値②まで締付けます。

	スパークプラグ 2.0 kg・m
---	---------------------

要 点

規定の締付トルク以上に締付けない。

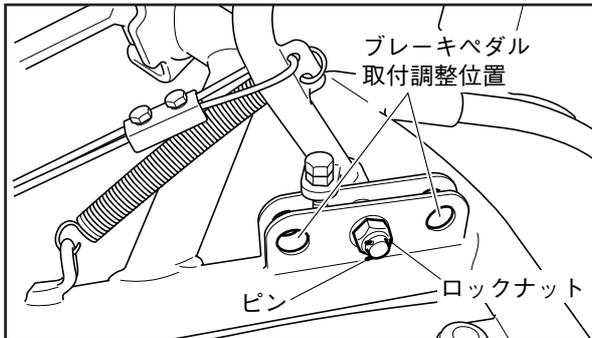




車体

ブレーキペダル取付位置の調整

1. ブレーキペダル取付位置を調整をします。ピンを外し、ロックナットを取外して、ペダルの位置を調整します。ロックナットで固定後、ピンで固定します。

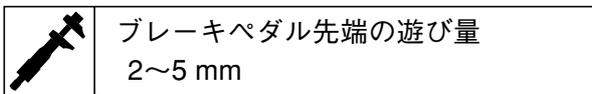


要 点

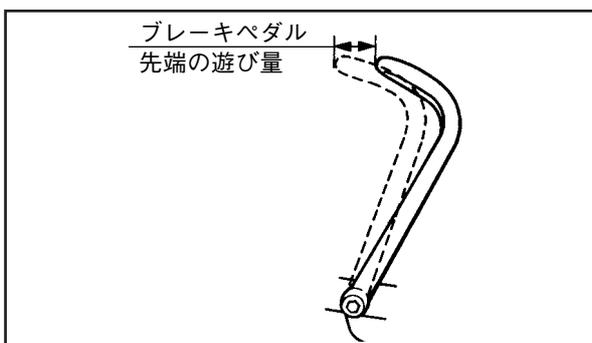
調整後、ブレーキペダルの遊びを調整する。

ブレーキペダル遊びの点検、調整

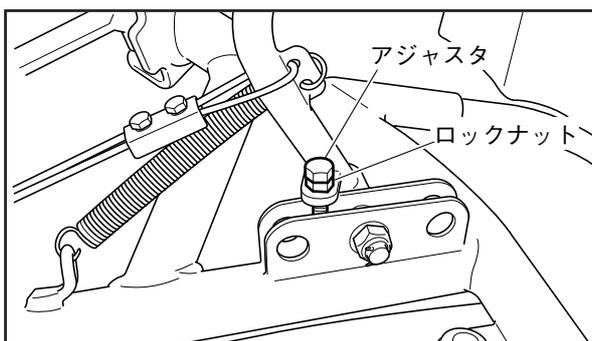
1. ブレーキペダル先端の遊び量の点検をします。



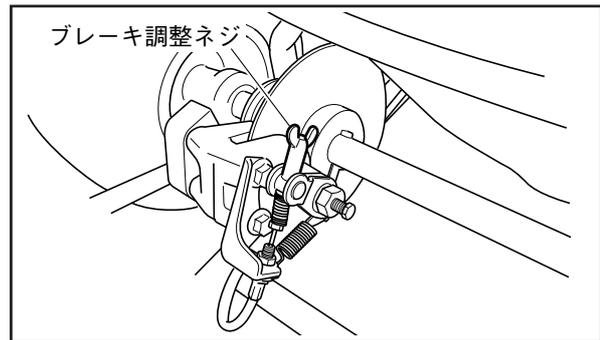
規定値以外は調整します。



2. ブレーキペダル先端の遊び量の調整をします。ロックナットをゆるめて、アジャスタを調整します。

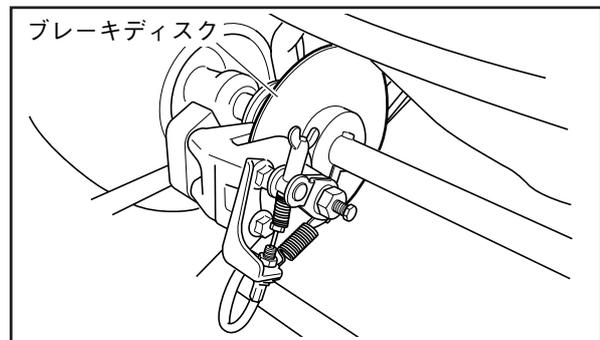


3. ブレーキキャリパ側の調整ネジで遊び量を調整することもできます。



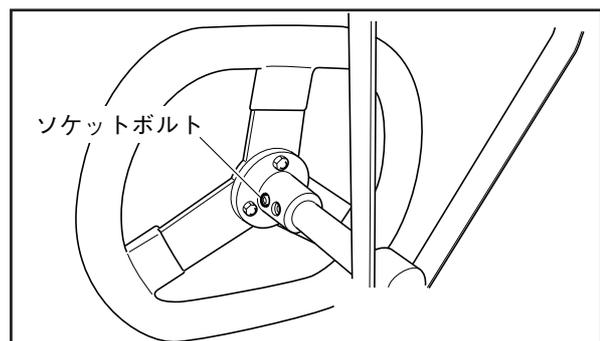
ブレーキディスクの点検

1. ブレーキディスクを点検します。摩耗していたら販売店に交換を依頼してください。



ハンドルの上下調整

1. ハンドル上下の調整をします。ソケットボルトをゆるめ、取付位置を調整します。



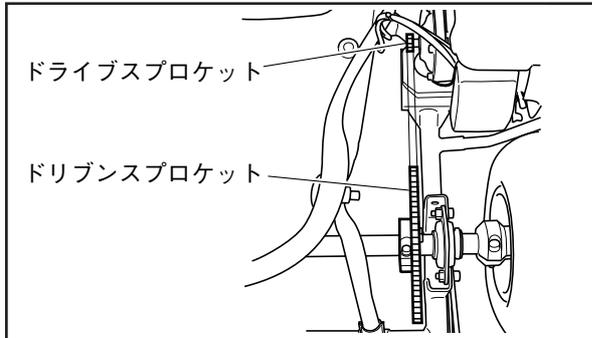


チェーンライン点検、調整

1. チェーンラインの点検をします。

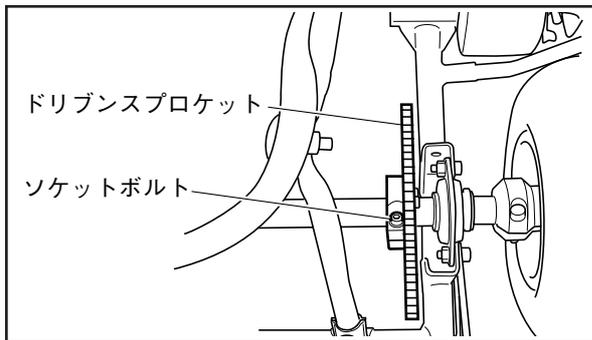
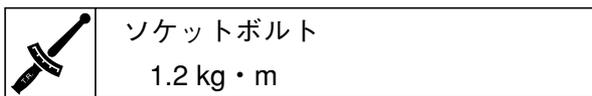
ドライブsprocketとドリブンスprocket間にスケール等を当て、チェーンラインを測定します。

チェーンラインがズれている時は調整します。



2. チェーンラインの調整をします。

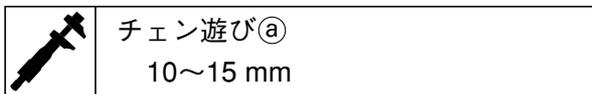
socket boltをゆるめ、ドリブンスprocketを左右に動かして調整します。



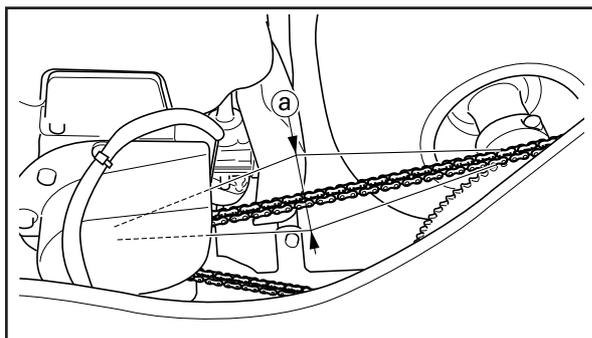
チェーン遊び点検、調整

1. チェーン遊びの点検をします。

チェーン遊び①の中間で遊びを点検します。

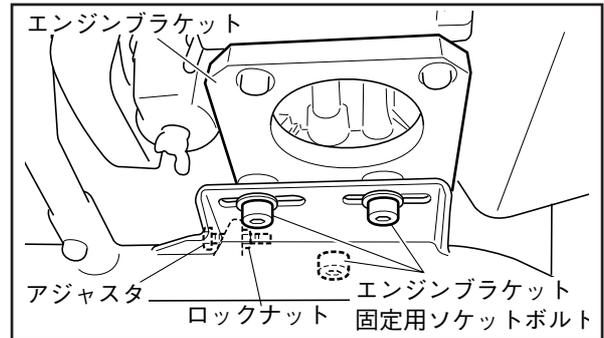
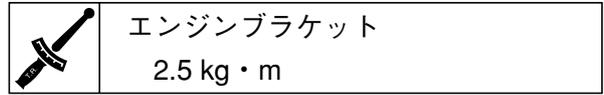


規定値以外は調整します。



2. チェン遊びの調整をします。

エンジンブラケット固定用socket boltとロックナットをゆるめて、アジャスタを回わして、エンジンブラケットを前後に動かして調整します。



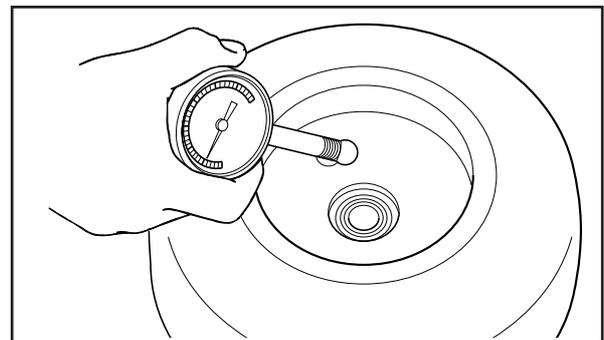
タイヤの空気圧点検

1. タイヤの空気圧の点検をします。

タイヤが冷えているとき、エアゲージを使用して空気圧を点検します。

空気圧	前輪	後輪
	120 kPa (1.2 kg/cm ²)	120 kPa (1.2 kg/cm ²)

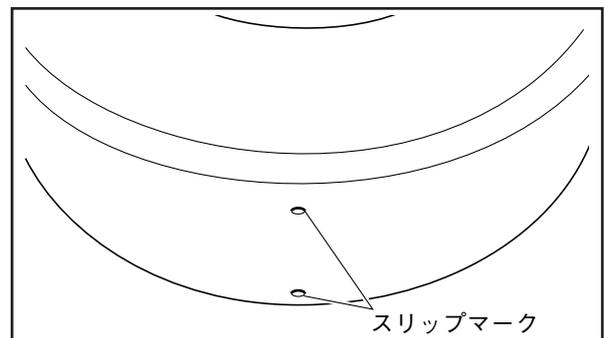
規定値以外は調整します。



タイヤ摩耗点検

1. タイヤ摩耗の点検をします。

スリップマークの有無を点検します。スリップマークが無くなる前にタイヤを交換します。



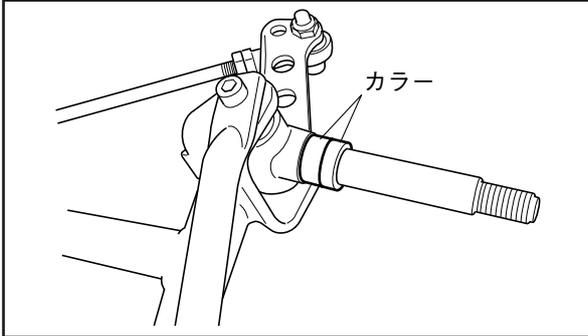


フロントトレッド調整

1. フロントトレッドの調整をします。
カラーの個数により調整します。

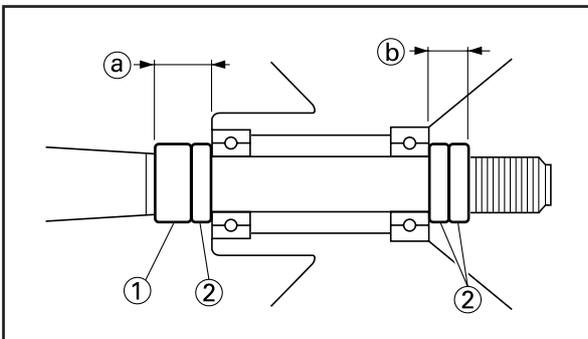
要 点

フロントトレッド調整は、左右同じ量の調整をする。



警告

内側のスペーサ①の合計幅①は32 mm以下に調整すること。また、内側のスペーサ①と外側のスペーサ②の合計幅 (①+②)は32 mm一定に調整すること。規定値以外の調整は、ホイールの脱落やがたつきの原因となる。



リアトレッド調整

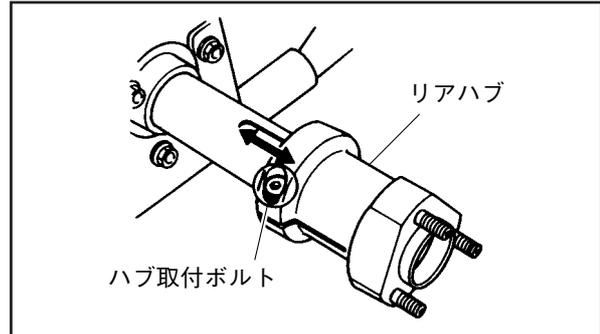
1. リアトレッドの調整をします。
ハブ取付ボルトをゆるめ、リヤハブをスライドさせて調整します。

要 点

左右同じ位置に取付ける。



ハブ取付ボルト
2.5 kg・m



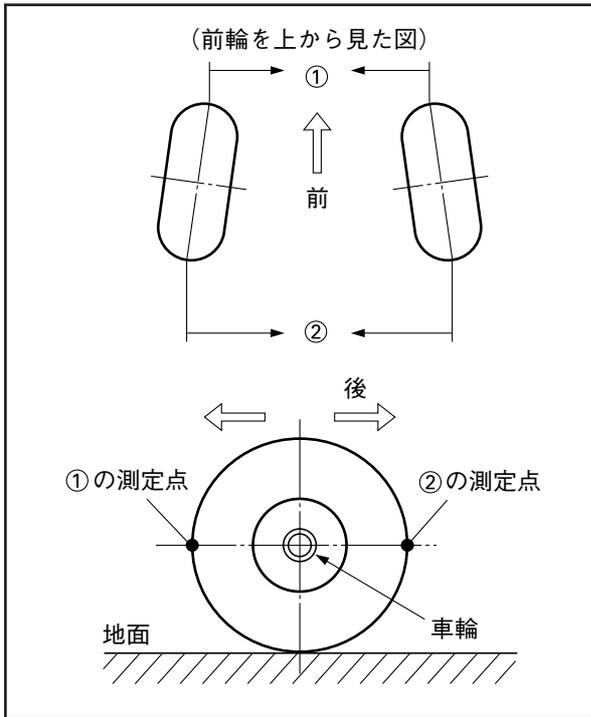


トーイン点検、調整

1. 左右のタイヤ中央にチョーク等で印をつけます。
2. 車軸と同じ高さで車軸前側の距離 ① (印と印の間) を測ります。
3. 車軸後側の距離 ② を測定します。
4. 車軸後側の距離と前側の距離の差 (② - ①) を計算します。

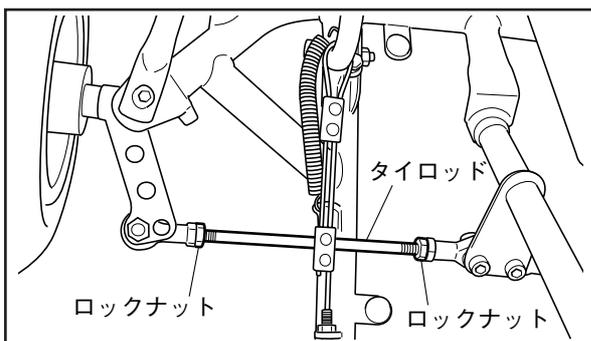
	標準トーイン 0 mm
--	----------------

規定値以外は調整します。



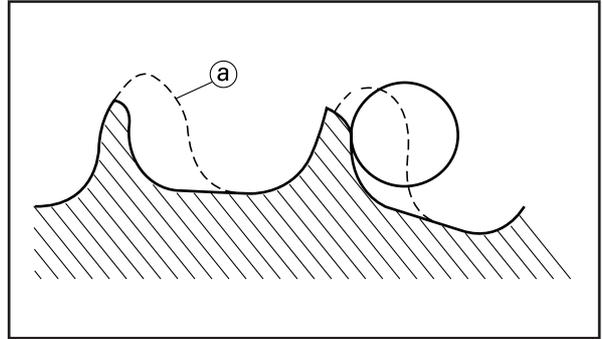
5. トーインの調整をします。
ロックナットをゆるめ、タイロッドにより調整します。

	ロックナット 2.0 kg・m
--	--------------------



スプロケット点検

1. ギヤの歯面 ① を点検します。
摩耗や損傷しているときは販売店に交換を依頼してください。摩耗の激しいものは、ドライブスプロケット、ドリブンスプロケット、ドライブチェーンの3点セットで交換します。





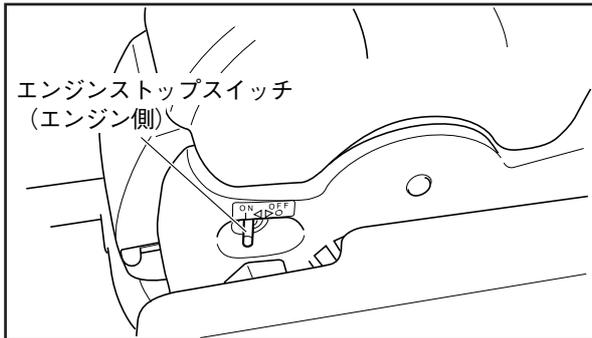
エンジンがかからないとき

修理を依頼される前に、まずご自身で次の点検を行なってください。

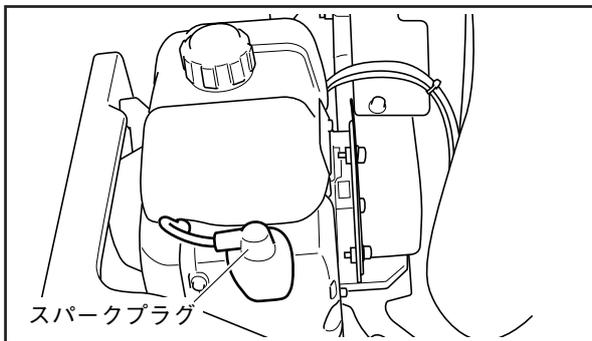
点検された上でなお異常のある場合は、販売店へお申し付けください。

点火は正常ですか？

1. エンジン側のエンジンストップスイッチは「ON」側になっているか確認します。

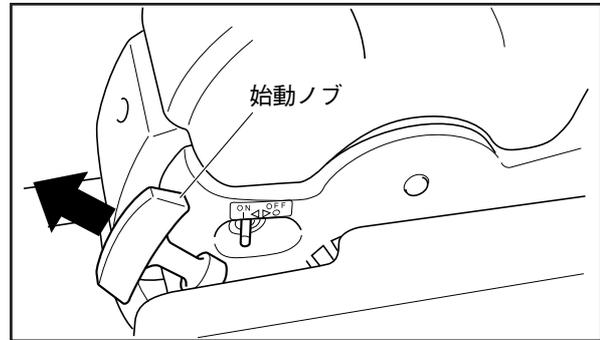


2. スパークプラグを外し、汚れている場合は清掃または交換してください。



圧縮は十分ですか？

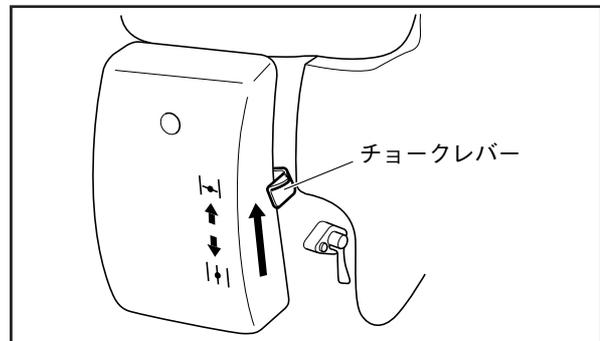
1. リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引いて確認します。
圧縮の少ない時はスパークプラグの締付けが確実か確かめ、ゆるんでいたら増締めしてください。



2. その他の時は販売店へお申し付けください。

燃料が燃焼室に吸込まれていますか？

1. チョークレバーを閉じ、5～6回始動ノブを引いてからスパークプラグを外してください。プラグの先端がぬれていれば燃料の吸い込みは良好です。



2. 燃料が吸込まれていない場合は、燃料がどこかで止まっているか点検（気化器および燃料コック）してください。
3. 燃料が吸込まれていて始動しない場合は、新しい燃料と交換してみてください。（燃料の抜き方はP 3-6 参照）

Amigao オーナーズマニュアル

2005年11月発行

不許複製

編集発行 Vivo Kart Factory
カート担当

Vivo
Kart Factory